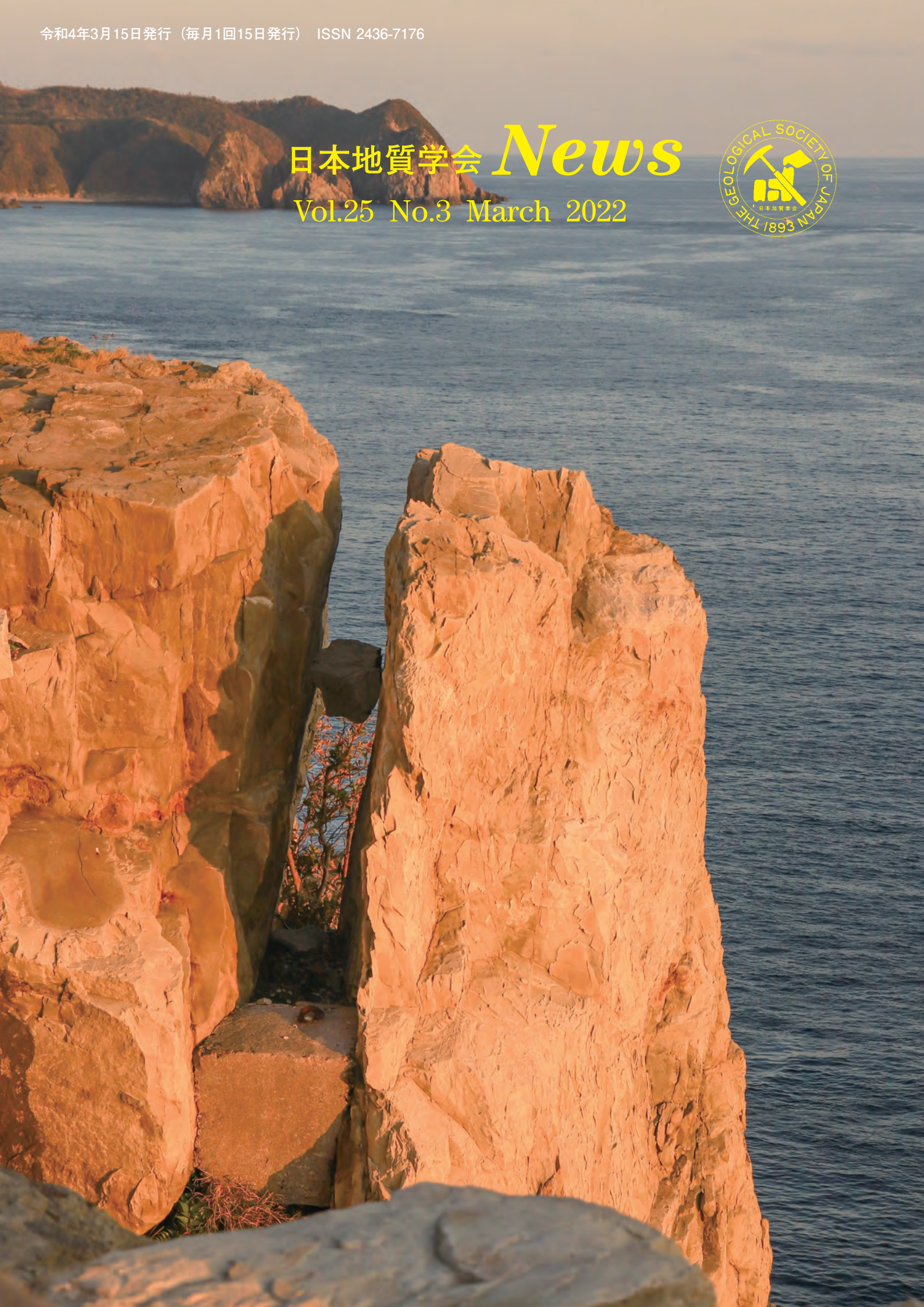
令和4年3月15日発行（毎月1回15日発行） ISSN 2436-7176

日本地質学会 News

Vol.25 No.3 March 2022



一般社団法人日本地質学会
The Geological Society of Japan

理 事

任期：2020 年 5 月 23 日～ 2022 年総会

会長（代表理事） 磯﨑行雄（東京大学）

副会長 佐々木 和彦（応用地質（株））
平田大二（神奈川県立生命の星・地球博）

常務理事 中澤　努（産業技術総合研究所）
副常務理事 岡田　誠（茨城大学）
執行理事 ウォリス サイモン（東京大学）
緒方信一（中央開発（株））
大藤　茂（富山大学）
狩野彰宏（東京大学）
亀高正男（(株) ダイヤコンサルタント）
小宮　剛（東京大学）
坂口有人（山口大学）
高嶋礼詩（東北大学）
辻森　樹（東北大学）
星　博幸（愛知教育大）
松田達生（工学気象研究所）
矢部　淳（国立科学博）

理　事 上松佐知子（筑波大学）
芦　寿一郎（東京大学）
天野一男（東京大学）
安藤寿男（茨城大学）
内野隆之（産総研）
尾上哲治（九州大学）
笠間友博（箱根ジオミュージアム）
亀尾浩司（千葉大学）
亀田　純（北海道大学）
川端清司（大阪市立自然史博）
北村有迅（鹿児島大学）
清川昌一（九州大学）
後藤和久（東京大学）
小松原純子（産総研）
齋藤　眞（産総研）
杉田律子（科学警察研）
竹下　徹（北海道大学）
内藤一樹（産総研）
納谷友規（産総研）
奈良正和（高知大学）
西　弘嗣（東北大学）
根本直樹（弘前大学）
野田　篤（産総研）
早坂康隆（広島大学）
藤井正博（応用地質（株））
細矢卓志（中央開発（株））
保柳康一（信州大学）
松田博貴（熊本大学）
三田村宗樹（大阪市大学）
道林克禎（名古屋大学）
矢島道子（東京都立大学）
山口飛鳥（東京大学大気海洋研）

監 事

任期：2020 年 5 月 23 日～ 2024 年総会

岩部良子（応用地質（株））
山本正司（山本司法書士事務所）

一般社団法人日本地質学会
〒101-0032　東京都千代田区岩本町 2-8-15　井桁ビル
電話　03-5823-1150　FAX　03-5823-1156（振替口座　00140-8-28067）
e-mail: main@geosociety.jp　ホームページ htttp://geosociety.jp

日本地質学会*News*

Vol.25 No.3 March 2022

The Geological Society of Japan *News*
一般社団法人日本地質学会
〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15　井桁ビル ６F
編集委員長　小宮　剛
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

Contents

理事選挙の結果報告……2

CALENDAR……8

第13回惑星地球フォトコンテスト審査結果……8

公募……9
産総研特定業務任期付職員（地質情報のデータ配信管理業務）公募/伊豆大島ジオパーク推進委員会ジオパーク専門員募集/2022年度第2回大型計算機共同利用公募

博物館で地学を学ぼう！（３）……10
多摩六都科学館（小田島庸浩）

TOPIC……12
地質図に関するJIS（日本産業規格）：JIS A 0204とJIS A 0205の改正について（川畑大作・斎藤 眞）

2022年「地質の日」行事案内……14
オンライン一般講演会～最近の話題をテーマに/惑星地球フォトコンテスト第13回ほか入選作品展示会/街中ジオ散歩ミニin Tokyo「国分寺崖線」/第39回地球科学講演会

地質学雑誌：新しい論文が公開されています……15
論説　常時微動観測に基づく東京湾岸地域の沖積層の地盤震動特性とS波速度不連続面の深度（小松原純子ほか）/フォト　国内の上部白亜系におけるアンモノイドを含むコンクリーションの産状（御前明洋ほか）

表紙紹介……13
第12回惑星地球フォトコンテスト入選「奇跡の小岩」（石谷樹莉）

支部コーナー……16
関東支部：アウトリーチ巡検報告　川の防災と川が作った地形を巡る～首都圏外郭放水路見学と春日部周辺，中川低地の地形観察/2022年度総会・講演会開催のお知らせ（第二報）

院生コーナー……19
研究室紹介：東京大学大気海洋研究所海洋底科学部門　山口研究室（大熊祐一）

巻末　入会申込書

露頭について，おおいに語りましょう！

地質学露頭紹介 at JpGU2022

日時：2022 年 5 月 29 日（日）14:00 から
方法：オンライン（Zoom）＋YouTube ライブ配信
参加申込：参加のみの場合，地質学会会員は事前登録不要．
発表申込：5 月 9 日（月）18 時締切
詳しくは，学会 HP またはニュース誌 2 月号を参照してください．

学会事務局は現在も出勤日数・人数を調整しながら部分的テレワークを導入しております．営業時間は通常通り，電話対応も再開しておりますが，事務局へのご連絡・お問い合わせはできるだけメールでお送りください．ご理解・ご協力のほどよろしくお願い致します．

印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都豊島区東池袋4－41－24

2022 年 3 月 22 日

会員各位

理事選挙の結果報告

一般社団法人日本地質学会
選挙管理委員会　委員長　飛田　健二

一般社団法人日本地質学会選挙規則ならびに選挙細則に基づき，理事選挙を実施いたしました．結果は下記のとおりとなりましたので，ご報告いたします．

記

1．理事選挙（定数：50 名）

(1) 全国区選出枠の理事（定数 43 名）

全国区当選代議員からの理事立候補者は選出定数を超えたため（立候補者数 55 名），新代議員による投票を行いました．

(2) 理事選挙実施結果

有権者総数　186 名
投票用紙発送数　186 通
投票総数　129 通
有効投票数・無効投票数　有効　129 票　／　無効　0 票

(3) 地方支部区選出枠の理事（定数：7 名，一つの支部区から 1 名ずつ）

各地方支部区から選出する 7 名の理事は，いずれの支部区も選出定数（一つの支部区から 1 名ずつ）を超える立候補はありませんでしたので，選挙規則第 6 条に基づき無投票当選といたしました．

2．理事選挙開票結果および当選者の名簿は次のとおりです．

(1) 全国区選出枠の理事〔定数 43 名／立候補者数 55 名〕

※任期：2022 年総会終了後～ 2024 年総会まで

※理事当選者は代議員ではなくなります．なお，当選にいたらなかった候補者は代議員です．

◆階層（所属）別充足数　当選（「小中高」所属の立候補者はありませんでした）

	立候補者名	所属機関名	所属階層	得票	定数
当	星　博幸	愛知教育大学	大学	110	1
当	岡田　誠	茨城大学	大学	103	2
当	坂口　有人	山口大学	大学	90	3
当	山口　飛鳥	東京大学大気海洋研究所	大学	89	4
当	辻森　樹	東北大学東北アジア研究センター	大学	87	5
当	磯崎　行雄	東京大学	大学	82	6
当	小宮　剛	東京大学	大学	82	7
当	中澤　努	産業技術総合研究所	官公庁等	88	8
当	杉田　律子	科学警察研究所	官公庁等	87	9
当	小松原　純子	産業技術総合研究所	官公庁等	84	10
当	斎藤　眞	産業技術総合研究所	官公庁等	71	11
当	菅沼　悠介	国立極地研究所	官公庁等	70	12
当	内野　隆之	産業技術総合研究所	官公庁等	70	13
当	亀高　正男	㈱ダイヤコンサルタント	会社	76	14
当	緒方　信一	中央開発㈱	会社	75	15
当	松田　達生	㈱工学気象研究所	会社	63	16
当	佐々木　和彦	応用地質㈱	会社	62	17
当	細矢　卓志	中央開発㈱	会社	53	18
当	加藤　猛士	川崎地質㈱	会社	53	19
当	下岡　和也	愛媛大学	大学院生	54	20
当	桑野　太輔	千葉大学	大学院生	52	21

※『大学』の所属階層は得票順位 6 位が同数のため、今回に限り 2 名とも“階層別充足数当選”といたしました。

◆階層外　得票数順

	立候補者名	所属機関名	所属階層	得票	定数
当	狩野　彰宏	東京大学	大学	81	22
当	尾上　哲治	九州大学	大学	79	23
当	髙嶋　礼詩	東北大学学術資源研究公開センター	大学	74	24
当	堀　利栄	愛媛大学	大学	74	25
当	西　弘嗣	福井県立大学恐竜学研究所	大学	72	26
当	清川　昌一	九州大学	大学	72	27
当	松田　博貴	熊本大学	大学	70	28
当	神谷　奈々	京都大学	大学	63	29
当	矢部　淳	国立科学博物館	官公庁等	63	30
当	沢田　健	北海道大学	大学	59	31
当	川村　紀子	海上保安庁海上保安大学校	大学	55	32
当	保柳　康一	信州大学	大学	55	33
当	山路　敦	京都大学	大学	55	34
当	野田　篤	産業技術総合研究所	官公庁等	55	35
当	芦　寿一郎	東京大学	大学	54	36
当	内尾　優子	国立科学博物館	官公庁等	53	37
当	大橋　聖和	山口大学	大学	52	38
当	北村　有迅	鹿児島大学	大学	51	39
当	天野　一男	東京大学空間情報科学研究センター	大学	50	40
当	矢島　道子	東京都立大学	大学	49	41
当	大友　幸子	山形大学	大学	49	42
当	高野　修	石油資源開発㈱	会社	48	43
	後藤　和久	東京大学	大学	48	
	納谷　友規	産業技術総合研究所	官公庁等	47	
	亀尾　浩司	千葉大学	大学	46	
	武藤　俊	産業技術総合研究所	官公庁等	45	
	津野　洋美	応用地質㈱	会社	45	
	川端　清司	大阪市立自然史博物館	官公庁等	42	
	沢田　輝	海洋研究開発機構	官公庁等	40	
	吉田　健太	海洋研究開発機構	官公庁等	40	
	野崎　達生	海洋研究開発機構	官公庁等	37	
	藤井　正博	応用地質㈱	会社	31	
	内藤　一樹	産業技術総合研究所	官公庁等	29	
	石橋　隆	益富地学会館	会社	22	

※定数 43 人目の理事は理事選挙の得票数 43 位同数が複数いたため，選挙規則第 7 条に則ってくじ引きにより選出しました.
※候補者 1 名より　理事立候補への辞退の申し出がありましたため，立候補者数は 55 名です.

(2) 地方支部区選出枠の理事〔定数 7 名〕

※任期：2022 年総会終了後～ 2024 年総会まで
※理事当選者は代議員ではなくなります.

支部区	立候補者名	所属機関名	所属階層
北海道	亀田　純	北海道大学	大学
東　北	黒柳　あずみ	東北大学学術資源研究公開センター	大学
関　東	笠間　友博	箱根町立箱根ジオミュージアム	官公庁等
中　部	道林　克禎	名古屋大学	大学
近　畿	三田村　宗樹	大阪市立大学	大学
四　国	青矢　睦月	徳島大学	大学
西日本	山本　啓司	鹿児島大学	大学

３．代議員選出者名簿は次のとおりです．（既報）

(1) 全国区代議員（57 名：理事選挙による選出者は除く）

※任期：2022 年総会終了後～ 2024 年総会まで

立候補者名	所属機関名	所属階層
竹下　徹	北海道大学	大学
津野　洋美	応用地質㈱	会社
七山　太	ふじのくに地球環境史ミュージアム	官公庁等
山田　泰広	九州大学	大学
安藤　寿男	茨城大学	大学
原田　浩伸	東北大学	大学院生
向山　栄	国際航業㈱	会社
平田　大二	神奈川県立生命の星・地球博物館	官公庁等
石橋　隆	益富地学会館	会社
折橋　裕二	弘前大学	大学
竹内　真司	日本大学	大学
沢田　輝	海洋研究開発機構	官公庁等
青木　一勝	岡山理科大学	大学
石川　正弘	横浜国立大学	大学
野崎　達生	海洋研究開発機構	官公庁等
冨永　紘平	つくば市役所（筑波山地域ジオパーク推進協議会）	官公庁等
内藤　一樹	産業技術総合研究所	官公庁等
山本　伸次	横浜国立大学	大学
阿部　なつ江	海洋研究開発機構	官公庁等
安間　了	徳島大学	大学
藤井　正博	応用地質㈱	会社
益田　晴恵	大阪市立大学	大学
松崎　賢史	東京大学大気海洋研究所	大学
石﨑　泰男	富山大学	大学
宇野　正起	東北大学	大学
小俣　雅志	㈱パスコ	会社
亀尾　浩司	千葉大学	大学
佐久間　杏樹	東京大学	大学院生
納谷　友規	産業技術総合研究所	官公庁等
奈良　正和	高知大学	大学
吉田　健太	海洋研究開発機構	官公庁等
青木　翔吾	秋田大学	大学
石輪　健樹	国立極地研究所	官公庁等
河上　哲生	京都大学	大学
後藤　和久	東京大学	大学
佐藤　たまき	東京学芸大学	大学
中村　佳博	産業技術総合研究所	官公庁等
福地　里菜	鳴門教育大学	大学
宮下　由香里	産業技術総合研究所	官公庁等
村山　雅史	高知大学	大学
山口　耕生	東邦大学	大学
山田　来樹	新潟大学	大学院生
秋澤　紀克	東京大学大気海洋研究所	大学
伊規須　素子	海洋研究開発機構	官公庁等
大熊　祐一	東京大学大気海洋研究所	大学院生
大藤　茂	富山大学	大学
大山　望	九州大学	大学院生
川端　清司	大阪市立自然史博物館	官公庁等

菊川　照英	伊藤忠石油開発㈱	会社
清水　以知子	京都大学	大学
志村　俊昭	山口大学	大学
瀬戸　大暉	応用地質㈱	会社
中野　敬太	石油天然ガス・金属鉱物資源機構	官公庁等
濵田　洋平	海洋研究開発機構	官公庁等
原　英俊	産業技術総合研究所	官公庁等
武藤　俊	産業技術総合研究所	官公庁等
武藤　潤	東北大学	大学

(2) 地方支部区代議員（79 名）

※任期：2022 年総会終了後～ 2024 年総会まで

北海道（3 名）

氏名	所属	所属階層
重野　聖之	明治コンサルタント㈱	会社
佐藤　誠	北海道札幌西高等学校	小中高
廣瀬　亘	北海道立総合研究機構	官公庁等

東北（3 名）

氏名	所属	所属階層
西川　治	秋田大学鉱業博物館	大学
松井　浩紀	秋田大学	大学
根本　直樹	弘前大学	大学

関東（31 名）

氏名	所属	所属階層
澤田　大毅	㈱地球科学総合研究所	会社
棚瀬　充史	㈱地圏総合コンサルタント	会社
大坪　誠	産業技術総合研究所	官公庁等
板宮　裕実	科学警察研究所	官公庁等
本田　尚正	東京農業大学	大学
加藤　潔	駒澤大学	大学
米澤　正弘	なし	その他
方違　重治	国土防災技術㈱	会社
金丸　龍夫	日本大学	大学
小田原　啓	神奈川県温泉地学研究所	官公庁等
外山　浩太郎	神奈川県温泉地学研究所	官公庁等
野崎　篤	平塚市博物館	官公庁等
野々垣　進	産業技術総合研究所	官公庁等
宇都宮　正志	産業技術総合研究所	官公庁等
河尻　清和	相模原市立博物館	官公庁等
佐藤　大介	産業技術総合研究所	官公庁等
志村　侑亮	産業技術総合研究所	官公庁等
青野　道夫	（同）ジオプレイズ	会社
伊藤　剛	産業技術総合研究所	官公庁等
川畑　大作	産業技術総合研究所	官公庁等
冨田　一夫	日鉄鉱コンサルタント㈱	会社
細井　淳	産業技術総合研究所	官公庁等
山下　浩之	神奈川県立生命の星・地球博物館	官公庁等
井上　卓彦	産業技術総合研究所	官公庁等
河野　聖那	東京大学	大学院生
田村　糸子	中央大学	大学

土井　信寛	千葉大学	大学院生
羽田　裕貴	産業技術総合研究所	官公庁等
針金　由美子	産業技術総合研究所	官公庁等
森田　澄人	産業技術総合研究所	官公庁等
吉田　聡	東京大学	大学

中部（16 名）

氏名	所属	所属階層
豊島　剛志	新潟大学	大学
常盤　哲也	信州大学	大学
片岡　香子	新潟大学災害・復興科学研究所	大学
纐纈　佑衣	名古屋大学	大学
長谷川　卓	金沢大学	大学
林　誠司	名古屋大学	大学
藤田　将人	富山市科学博物館	官公庁等
安江　健一	富山大学	大学
山田　昌樹	信州大学	大学
大谷　具幸	岐阜大学	大学
長谷部　徳子	金沢大学	大学
森　宏	信州大学	大学
竹内　誠	名古屋大学	大学
平内　健一	静岡大学	大学
福地　龍郎	山梨大学	大学
山本　博文	福井大学	大学

近畿（10 名）

氏名	所属	所属階層
大串　健一	神戸大学	大学
田中　里志	京都教育大学	大学
和田　穣隆	奈良教育大学	大学
里口　保文	滋賀県立琵琶湖博物館	官公庁等
栗原　行人	三重大学	大学
窪田　安打	応用地質㈱	会社
谷　保孝	大阪工業大学	大学
小泉　奈緒子	和歌山県立自然博物館	官公庁等
松原　典孝	兵庫県立大学	大学
川勝　和哉	兵庫県立姫路東高等学校	小中高

四国（3 名）

氏名	所属	所属階層
齊藤　哲	愛媛大学	大学
藤内　智士	高知大学	大学
寺林　優	香川大学	大学

西日本（13 名）

氏名	所属	所属階層
亀井　淳志	島根大学	大学
池上　直樹	御船町恐竜博物館	官公庁等
上野　勝美	福岡大学	大学
太田　泰弘	北九州市立自然史・歴史博物館	官公庁等
木村　光佑	呉工業高等専門学校	大学
白石　史人	広島大学	大学

菅森　義晃	鳥取大学	大学
隅田　祥光	長崎大学	大学
辻　智大	山口大学	大学
向吉　秀樹	島根大学	大学
太田　努	岡山大学惑星物質研究所	大学
小松　俊文	熊本大学	大学
礼満　ハフィーズ	鹿児島大学	大学

CALENDAR

2022.4〜

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
★印は学会主催，（共）共催，（後）後援，（協）協賛．

2022年

4月　April

日本堆積学会2022年オンライン大会
4月23日（土），24日（日）
※ただし発表者が少ない場合には23日のみ
大会参加登録締切：4月22日（金）正午
http://www.sediment.jp/04nennkai/2022/2022online_annai.html

5月　May

日本地球惑星科学連合2022年大会
5月22日（日）〜6月3日（金）
【ハイブリッド期間】5月22日（日）〜27日（金）
【オンラインポスターセッション】5月29日（日）〜6月3日（金）
開催方式：ハイブリッド方式（現地開催＋オンライン開催）
現地会場：幕張メッセ（千葉市美浜区）
https://www.jpgu.org/

★地質学露頭紹介 at JpGU2022
5月29日（日）14:00から
方法：オンライン（Zoom）＋YouTubeライブ配信
発表申込期限：5月9日（月）18時
http://www.geosociety.jp/science/content0146.html

6月　June

地質学史懇話会
※オンラインとハイブリッド
6月18日（土）13:30〜16:30
場所：早稲田奉仕園（東京メトロ東西線早稲田駅下車徒歩5分）
講演者；中川智視，五味　篤
問い合わせ：矢島道子 pxi02070@nifty.com

7月　July

（後）第59回アイソトープ・放射線研究発表会（オンライン）
7月6日（水）〜8日（金）
事前参加登録：4月6日（水）〜 6月10日（金）17時
https://confit.atlas.jp/guide/event/jrias2022/top

（共）岩石一水相互作用国際会議（WRI-17）
~~7月30日（土）〜 8月4日（木）~~
~~会場：仙台市~~
※2023年8月に延期
https://www.wri17.com/

8月　August

（後）科学教育研究協議会第68回全国研究大会（岡山大会）
8月10日（水）〜12日（金）
会場　岡山理科大学　岡山キャンパス
https://kakyokyo.org/

（後）第9回国際地学教育会議
8月21日（日）〜25日（木）
場所：くにびきメッセ（島根県コンベンションセンター）
https://ja.geoscied9.org/

9月　September

★日本地質学会第129年学術大会（2022東京・早稲田大会）
9月4日（日）〜6日（火）
会場：早稲田大学　早稲田キャンパス（東京都新宿区西早稲田）
※関連行事「地質情報展2022とうきょう」は同会場で9/3-9/5開催予定です．

日本鉱物科学会2022年年会・総会
9月17日（土）〜19日（月）
会場：新潟大学
http://jams.la.coocan.jp

国際ゴンドワナ研究連合（IAGR）2022年総会及び第19回ゴンドワナからアジア国際シンポジウム
9月23日〜25日（シンポジウム）
9月26日〜27日（峨眉山巨大火山区野外巡検）
場所：中国四川省成都工科大学
https://www.data-box.jp/pdir/4aa617ecc00845c284f085edba48eec5

11月　November

日本火山学会2022年度・秋季大会
11月3日（木）〜6日（日）
会場：三島市民文化会館・三島市民市生涯学習センター（状況により開催方法・内容が変更になる可能性があります）
http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/J/index.html

注意：新型コロナウィルス感染拡大の影響により，行事中止の可能性もあります．実際の行事開催の有無については事前に各主催者，問い合わせ先にご確認ください．

第13回惑星地球フォトコンテスト審査結果

最優秀賞：
露木孝範（静岡県）宝永火口岩脈群

優秀賞（2点）：
加藤順子（東京都）3つのStream
高木　嶺（東京都）恐怖の石段

ジオパーク賞：
大場建夫（秋田県）大海に注ぐ湧水

日本地質学会会長賞：
金子敦志（福島県）ミニチュアテラス

※作品画像，講評，地質解説などは，次回ニュース及び学会HPに掲載予定です．また作品の展示会も予定しています（本誌14ページ参照）

ジオ鉄賞：
落合文登（宮崎県）たまゆらの中の洗濯岩

スマホ賞：
安永　雅（長崎県）シマシマの島山島

入選（5点）：
中川達郎（愛媛県）4億年の記憶
金井雄亮（東京都）Inside the Volcano
福村成哉（和歌山県）大荒れ橋杭岩
笠井　忠（奈良県）ぽっかり
谷川七海（長崎県）広がる世界

公募

教員・職員公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

産総研特定業務任期付職員（地質情報のデータ配信管理業務）公募

募集職種：国立研究開発法人産業技術総合研究所　特定業務任期付職員（任期制常勤職員）
※採用後，任期途中または任期終了時に所定の審査により任期の定めのない常勤職員（60歳定年制）として採用する可能性有り．
採用予定日：2022年8月1日
任期（雇用期間）：3年（ただし，経歴を踏まえて任期の定めなく採用することがある．）
採用予定人数：1名（選考の結果，採用者なしとする場合有り．）
勤務地：茨城県つくば市
業務内容：地質情報のデータ配信管理：ネット上での運用性を高めた各種地質情報整備
・地質調査総合センター (GSJ)の研究成果である地質情報を，相互運用性の高いデータとして整備するための企画立案・実行
・インターネットを通じた利活用性の高い情報提供及びデータ連携を実現するための情報システムの企画・構築・運用
・GSJの公開データベースシステムの管理・運用
・上記に付随する管理等マネジメント及びその他業務
応募資格：
1. 実務経験
・SQLとPHP等の言語を用いた開発経験を有すること
・Linuxサーバの使用経験を有すること
2. 資格等要件
2-1. 情報処理に関する資格（基本情報技術者試験，応用情報技術者試験等）又は同等以上の資格を有することが望ましい．もしくは，同等以上の能力を有すると判断できる業務経歴を有すること．
2-2. 以下の項目に関する知識・経験を有する，または今後積極的に習得する意欲を有することが望ましい．
・RDF形式のデータ整備及びオントロジー構築
・SPARQLを用いた開発及びSPARQLエンドポイントの運用
・公開APIの開発とそれを利用したデータ連携
応募期限：2022年4月15日(金)必着のこと．
問合わせ先：
E-mail：aist-koubofm13-ml@aist.go.jp
TEL：029-862-6286（直通）
募集の詳細は，HPを参照してください．
https://www.aist.go.jp/aist_j/humanres/03jimu/shinryojo.html

伊豆大島ジオパーク推進委員会 ジオパーク専門員募集

伊豆大島火山博物館を観光客にも，地域の方にも親しまれ愛される伊豆大島ジオパークの拠点施設として整備するため，令和6年リニューアルオープンを目指し，主担当となる地域おこし協力隊員を募集します．
募集人員：ジオパーク専門員（大島町任期付職員）１名　※地域おこし協力隊制度を活用
募集期限：令和４年４月28日（木）必着
※申込のあった方から順次選考し，採用の合否を決定するため，採用が決定した時点で受付を中止とします．申込前に必ずお問合せください．
任期：令和４年６月１日～令和5年3月31日（採用日から３年間を限度に任期を更新する場合あり）
応募資格
・令和４年４月１日現在で満50歳以下の者
・学校教育法に定める大学（短期大学を除く．）又は，大学院でジオパークに関連する分野（火山学・地質学・自然地理学等）を専攻・研究した者
・大学学士課程修了以上の学歴を有する者，又は令和4年3月31日までに修了見込の者，若しくはジオパーク等の運営又は支援業務の実務経験が5年以上ある者　ほか
募集の詳細は，HPを参照してください．
https://town.oshima.tokyo.jp/soshiki/soumu/saiyo2022021401.html
問合せ先：東京都大島町役場総務課
TEL:04992-2-1443 / FAX:04992-2-1371

2022年度 第2回大型計算機共同利用公募

地震・火山・防災の関連分野では，大量のデータを用いたり，大規模計算を実施するといった大型計算機を利用しなければならない研究分野が増えてきました．しかし，大型計算機は，限られた資源であり，広く一般的に利用できる状況には至っていません．そこで地震研究所では，2020 年度より，地震・火山・防災の関連分野の研究遂行に関わる大規模計算を行う研究課題（以下地震火山防災研究）を公募しております．2022 年度は，希望計算資源量に応じて，以下の 3 種類を公募します．
A）超大型研究：大型研究を複数含む
B）大型研究：大規模計算を複数含む
C）挑戦的研究：A）やB）への準備段階の研究課題，萌芽的な研究課題および EIC では実行が難しい研究が対象
応募資格：申請，及び研究組織へ参加できるのは，国内外の大学，国・公立研究機関の教員・研究者又はこれに準じる者（名誉教授・大学院学生・財団等民間団体や企業の研究者）とします．なお，大学院学生は，大型計算機共同利用公募研究の C）挑戦的研究を除き，研究代表者となることはできません．※若手研究者の積極的な応募を歓迎いたします．
申請方法： 共同利用 HP（https://www.eri.u-tokyo.ac.jp/kyodoriyou/application_form/）にある所定の様式に必要事項を記入のうえ，Web 申請システムを使用し，申請してください．
Web 申請システム：https://erikyodo.confit.atlas.jp/ja
研究期間：採択日から 2023 年 3 月末まで
審査の方針： 本研究所の共同利用委員会では，提出された申請書を審査し，採否を決定します．研究計画の内容が各種共同利用の趣旨に沿っていることが重要です．また，各種の専門分野の研究者からなる委員全員で審査しますので，その点を意識した申請書の作成をお願いします．
申請期限：A 超大型研究，B大型研究，C挑戦的研究 2022年5月31 日(火)【厳守】
*C 挑戦的研究については，計算リソースに余裕があれば 8 月，11 月末を申請期限としても受け付けます．
各種提出先，問い合わせ先：
〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1
東京大学地震研究所 研究支援チーム（共同利用担当）
電話：03-5841-1769, 5710
FAX：03-5689-4467
E-mail: k-kyodoriyo@eri.u-tokyo.ac.jp

多様な「学びの場」と「地域づくり」への貢献をめざして

多摩六都科学館研究・交流グループ　**小田島庸浩**

■多摩六都科学館の紹介

多摩六都科学館（以下，当館）は5つの常設展示室と大型のプラネタリウムドームを有する参加体験型の博物館相当施設です．当館は多摩北部の小平市，東村山市，田無市，保谷市，清瀬市，東久留米市の6市で共同設置した施設で，地域住民の生涯学習の推進と文化の振興に寄与することを目的として1994年に開館しました．2001年に田無市と保谷市の合併により西東京市となりましたので現在は5市による運営ですが，「多摩六都」の名称は広域行政圏の象徴として残されました．常設展示室の1つに地学をメインテーマとした「地球の部屋」があります．ここでは，「地球の部屋」の展示と，その他のいくつかの地学教育活動について紹介します．

■地学系の展示，内容紹介

当館の常設展示室「地球の部屋」はいくつかの小コーナーに区分されています．その中から入門コーナーと地域の地質コーナーを紹介します．入門コーナーは，多くの児童向け書籍や教科書に掲載されている内容，またそれに関連した内容の展示です．部屋の中央部を大きく2つに分け，一方には化石を，もう一方には岩石・鉱物を展示しています．化石は地質年代ごとに古生代，中生代，新生代と分けて展示しています．古生代から新生代へ向かって化石標本を眺めることで，地球の生物相が，およそどのように変遷したのかをイメージできるように配慮しました．また，示準化石としてよく知られている三葉虫やアンモナイトの標本は数多くの種類を展示しています．これらの化石は人気があり，熱心に観察する児童がいます．それぞれに大きさや形にバリエーションがあることを読み取っているようです．

岩石・鉱物の展示は，理科の教科書で紹介されるような種類の標本はほぼ網羅しています．また，教科書では独立した項目を設けて解説しているものが少ないようですが，当館では「岩石のサイクル」を強く意識した展示をしています．火成岩，堆積岩，変成岩が長い時間をかけて姿をかえながらサイクルするイメージと，さまざまな地学事象とを関連付けて理解することができます．地球内部の運動に起因する火成活動や地殻変動，太陽から地球に届くエネルギーに起因する岩石の風化や砕屑物の運搬などの一連の地学事象を，より大きなスケールでみることができます．「岩石のサイクル」は地学の面白さに気付く大きなフックになってくれるのではないかと期待しています．

地域の地質コーナーは，当館の立地している武蔵野台地の地史をテーマとした展示構成としています．武蔵野台地の大部分は関東ローム層で覆われており，その下には砂層や礫層が見られます．これらの起源は，およそ数万年という時間スケールで繰り返す海進と海退に連動して起こる堆積と浸食，そして富士山をはじめとする西側の火山の噴火による降灰で説明されます．

関東ローム層は，武蔵野台地のみならず関東に広く分布する地質であるにもかかわらず，実物を意識して観察したことがある人は少ないようです．道路工事や宅地造成の際に，地面を数m掘っている場合に見ることができますが，多くの現場では数週間で作業が終了して見えなくなってしまいます．また，長く放置されたのり面は植生に覆われて見えなくなってしまいます．当館では，工事現場の関東ローム層ののり面を剥ぎ取り標本にして展示しています．東京軽石層を含む場所で標本を作製しましたが，全体の印象はのっぺりとした乾燥した赤土です．関東ローム層は人目を引くような標本ではありませんが，利用者へ解説する際には武蔵野台地の主要な構成物であることを強調して伝えています．

関東ローム層の下にはかつての多摩川が関東山地から運んだ砕屑物によってできた砂礫層があります．礫が関東山地に由来することは礫の岩質などをみることでわかります．これは現在の多摩川の川原の礫についても同様です．川原の礫と多摩川の源流域の地質を比較することで，流れる水のはたらきによって山地から礫が運ばれたことを想像することができます．

上記の関東ローム層と礫層の重なりは，展示室の柱へ模式柱状図として描いてあります．この模式柱状図には，地下の特徴を強調してあります．それにより，関東ローム層の中の東京軽石層などの鍵層などをイメージしやすくなります．武蔵野台地とその周辺から得られる地質標本は，見た目の地味さから，一見つまらないものに見えるようです．しかし，これらは当館の多くの利用者にとって最も身近な地質です．そして，これらがダイナミックな地学的イベントの結果できたものであることをリアルに想像できれば，地味な見た目の標本にも，地学の面白さを感じてもらえると考えています．

この他にも，当館の展示室には東久留米市の南沢湧水群環境を再現した水槽，体験学習やスタッフが解説を行うコーナー「ちきゅうラボ」，市民コレクターのコレクションや活動を紹介するコーナーがあります．（「ちきゅうラボ」の開催日時は当館のホームページで案内しています．）

■地学関係のその他の活動

・地学教育プログラム

当館では月に1～2回，地学教育プログラムを実施しています．鉱物ビーズなどを使った工作をしながら鉱物や岩石について解説したり，屋外で岩石の観察をしながら地学事象の解説をしたりしています．いずれも定員以上の応募があり，抽選により当選者を決めています．特に，夏休み期間に実施するプログラムは人気が高く，定員の数倍の応募があることもあります．

ほとんどのプログラムが小学生を対象としたものですが，年に2回ほどは成人を対象とした講座を開催しています．内容は，地球の構造や岩石の成因について，高校の地学の一部を丁寧に解説するなど，さまざまです．学習意欲の高い参加者が多く，いくつも質問を

展示室「地球の部屋」

info

多摩六都科学館

〒188-0014　東京都西東京市芝久保町5-10-64

https://www.tamarokuto.or.jp/

左から，剥ぎ取り標本と武蔵野台地の模式柱状図．川原の小石．貸し出し用地質標本

受けることがあります．参加者からは「以前，地学の書籍を読んだ時には良く分からなかった部分を理解することができました」などの感想を頂きます．参加者の中には独学で地学を勉強している方が少なくありません．そういった方の学習を後押しできることは私たちにとっても大きな喜びとなります．また，成人向けプログラムをきっかけとして，公民館等での講演の依頼を受けることがあります．このように，幅広い年齢層に対してプログラムを展開することで，地学教育の場が広がることもあります．

・アウトリーチプログラム

地学教育プログラムや地学系の教員セミナーは，構成5市の小中学校，公民館などからの要望に応じて出張形式で行うこともあります．内容は主催者の開催趣旨や参加対象者の年齢層に応じてアレンジして行います．主催者からの要望として多いのは，地域地史に関する内容です．可能な限り，関連する地質標本を持参して参加者に観察してもらうようにしています．話だけではなく，実物の標本を観察する時間があると参加者は内容を理解しやすいようです．

・学校団体向け解説

団体利用の小学校からの希望があれば，展示室にて地域地史についての解説を行っています．地域地史の解説は小学校理科の単元学習「大地のつくりと変化」と関わりが強いため，関連を適切に説明できれば，学習内容を深めることができます．展示室にて解説を行うことは，標本や展示物を示しながら話すことができるというメリットがあります．しかし，他にも展示室を利用している団体があるなど，入館者が多い場合には展示室のようなオープンスペースでの解説は非常に困難です．展示室を利用した団体向け解説の方法の改善は今後の課題です．

・貸し出し標本

地学教育では，実物を観察しながら地学事象を解説することで高い教育効果が期待できます．当館では，学校や環境教育を行っている団体を対象とした標本セットの貸し出しを行っています．標本は特別に珍しいものではなく，当館の近場で採取したものです．これらは学校などでの地域地史の解説や単元学習の補助教材として使ってもらうことを目的として整備しました．現在は主に２種類の貸し出し標本を運用しています．１つは関東ローム層の標本です．これはA4用紙サイズの関東ローム層の剥ぎ取り標本と，関東ローム層から洗い出した火山灰のプレパラートのセットです．もう１つは多摩川の川原の礫のセットです．これは多摩川の川原で普通に見られる礫サイズの岩石を全種類まとめたものです．教員セミナーや理科部会の研修目的で来館した教員を中心に利用を促しており，１年間に数件の利用があります．

関東ローム層セットは中学校理科の「火山」の単元などで，多摩川の川原の礫のセットは小学校理科の「流れる水のはたらき」の単元などで活用されています．その他にも要望に応じて示準化石の貸し出しも行っています．

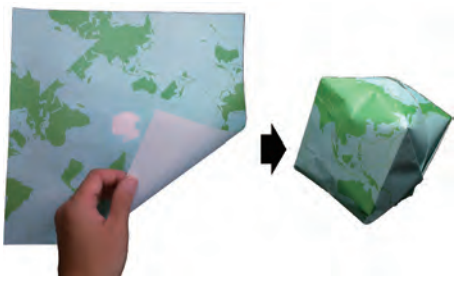
・地学関連のオリジナルグッズ

地学に関連したオリジナルグッズを作製し，当館のミュージアムショップで販売しています．児童に人気があるのは「多摩川の小石下敷き」と「荒川の小石下敷き」です．下敷きに印刷された礫の写真と川原で見られる礫の表面の様子を見比べることで，岩石の種類を類推することができるグッズです．裏面には，岩石の成因と分類，観察のポイントなどを記してあります．例年，夏休みの期間に，この下敷きを使って多摩川や荒川の岩石の種類を調べる自由研究を行う児童がいます．岩石の種類を分類して自由研究を完了とする児童もいますが，源流域の岩石まで観察して，川原の礫と上流の地質のつながりまで考察する児童もいます．当館を利用する児童をみると「石好き」の児童が一定数いることが伺えます．

未就学児でも楽しめるものとしては「ちきゅうおりがみ」があります．これは紙風船を折ると簡易的な地球儀になるというオリジナルグッズです．これはプログラム用に考案したものでしたが，購入希望の声が多く寄せられたため販売を開始したものです．現在販売中のものは，プレート境界を入れてあるため，プレートの立体的な分布をイメージするのに役立ちます．地学の授業で活用して頂いたこともあります．

成人の来館者に好評なのは，当館で管理している県の石について解説した「47都道府県の石ハンドブック」です．県の石は都道府県それぞれに化石，岩石，鉱物の３つが決められています．当館ではそのすべてを収集することができませんので，このハンドブックには各都道府県の県の石の内，１つを選んで取り上げています．ほとんどの人が47都道府県の内，出身地など，いずれかの都道府県にゆかりがあります．県の石は，多くの人にとって「石」や地学に興味をもつきっかけになりそうです．

最後に，コロナ禍における当館の活動について触れておきます．2020年以降，新型コロナウィルス感染症の拡大により，当館を含めた学習の場は様々な変化を強いられてきました．当館の場合はソーシャルディスタンス確保などの一般的な対策の他に，臨時休館，入館者数やプログラムの参加者数の制限，体験型展示物の休止，オンラインプログラムの開催などの対応を行っています．少なからず，利用者もスタッフも不便を感じることがあります．反面，それによって教育効果や環境は向上しているように感じる場面もあります．例えば，プログラムの参加者数が少なくなったことで１組当たりへの解説はより深くできるようになりました．また，コロナ禍以前にはほとんど気に留められていなかった館内の換気状況に対する意識も高まりました．コロナ禍がいつまで続くかはわかりませんが，安全に活動できる範囲で地学教育を継続するということは変わりません．当館は，様々に変化する状況に応じて，今後も柔軟な対策をもって活動を続けて参ります．



左から，小石下敷き．ちきゅうおりがみ．47都道府県の石ハンドブック

TOPIC

地質図に関するJIS（日本産業規格）：JIS A 0204とJIS A 0205の改正について

川畑大作・斎藤 眞（産業技術総合研究所地質調査総合センター）

本学会の宮下純夫元会長が原案作成委員会の委員長を務めた地質図に関するJIS（日本産業規格）：JIS A 0204とJIS A0205が，2019年に改正された．これまで著者らは原案作成委員会事務局として学会発表の場で紹介したが，以下に地質図に関するJIS規定の経緯と2019年の改正内容を改めて紹介し，利用促進につなげたい．

地質図は地質年代，岩相，地質構造などを表現する図であり，資源，環境，建築，防災などの基本情報となる．地質図の作成は，主に現地調査によって行われ，その歴史は古い．長い歴史の中で，例えば走向傾斜の記号や火山岩のハッチ表現など代表的な記号などは概ね国際標準（ISO）としてある程度決まっている．しかし，地質学の発展に伴い，地質学用語のゆらぎやローカル性が顕著になってきた．また，近年のコンピューターの普及に伴い，地質図の情報を数値処理できるようになってきた．そこで日本で作成する地質図について，2002年に規格準拠の地質図内での用語の統一や記号の統一など品質の保証と信頼度の向上を目指しISOとの整合性を検討しつつ地質図に関するJIS（日本工業規格）として，JIS A 0204「地質図－記号，色，模様，用語及び凡例表示」を規定した．また2008年には普及が進むコンピューターで容易に活用できるようになることまた電子納品への対応を目指して地質年代や岩石名などをコード化したJIS A 0205「ベクトル数値地質図－品質要求事項及び主題属性コード」を規定した．これらによって，JIS制定以前は，地質図の記号等がまちまちだったものが，地質図を作成する側と利用する側が同じルール（言葉）に基づいて地質図の理解が図れるようになった．

JISを規定した2002年以降，規格内での用語の統一や記号の統一は行われたものの，地質学の発展は継続的に続くものであり，JISでも最新の研究成果を反映させる必要がある．JISでは数年単位での見直しが行われることになっており，JIS A 0204及びJIS A 0205も2008年，2012年に見直しが行われ，改正を行った．改定の経緯については斎藤ほか（2019）で報告している．2012年の改正後，2014年11月に一般社団法人日本結晶学会がOrthorhombicの訳語として，“直方晶系（斜方晶系）”の表記を採用し，日本地質学会もこれを採用した．国際年代層序表では新たに固有の時代名称が与えられ，カンブリア紀が4分割されるなどの変更が行われた．このような名称等の変更に加え，2012年の改正時に不足していたリチウムなど鉱産物の文字記号の項目の追記や，2012年時に断層・地層境界などの存在確実度及び位置正確度を表現する記号を導入した際に規定しなかった岩脈の向きや深成岩の貫入境界面を表す方法の追加など，見直すべき項目が多数生じたため，ちょうどJISが「日本産業規格」に変わった2019年7月にこの規格を改正した．2019年改正内容については川畑ほか（2019）で報告したが，改めて詳細について下記に記す．JIS末尾にある解説には，詳細な経緯や補足説明が記述されおり，利用に際して一読されることをお勧めしている（例えば第1表）．また，2022年2月には，普及を目的として，市販のGISソフトウェアやグラフィックソフトウェアで使えるテンプレート試作版を地質調査総合センターで公開した（https://www.gsj.jp/information/standardization/jis/index.html）．

2019年版の主な改正内容

JIS A 0204

- 鉱物の名称の“斜方輝石”を“直方（斜方）輝石”に変更する（これは，直方輝石を推奨するが斜方輝石も使用可の意）．
- 地質学的属性を表現する主な記号の地層・岩体の境界面に，断層面と同様に，境界面の傾斜方向に短線をつけ，傾斜角の値を付けるよう変更する．
- 鉱産物の種類を表現する主な文字記号にリチウム及びインジウムを追加する．
- 地質学的属性を表現する主な記号に“立坑”及び“休廃止石材場”を追加する．
- 変成岩の名称の“黒色片岩”を削除し，“片岩”を追加する．
- 地質時代の記載を地質年代に統一する．
- 地質学的属性を表現する主な記号に地層・岩体の内部構造を示す走向傾斜記号や，試料採取地点及び坑口など，線で表現される記号の線種の記述を追加する．
- 地質学的属性を表現する主な記号に地層・岩体の内部構造を示す走向傾斜記号や，末尾の「その他」に示される試料採取地点や坑口など，線で表現される記号について線種を追加する．
- 地質学的属性を表現する主な記号の地層・岩体の境界及び断層等の主題属性の説明についての表記を統一する．

JIS A 0205

- 鉱物コードの“斜方輝石”を“直方（斜方）輝石”に変更する（これは，直方輝石を推奨するが斜方輝石も使用可の意）．
- 鉱物コードにおいて，ナウマン鉱，スピネル族（10種），タングステン鉱物（3種），マンガン鉱物（3種の追加），リン酸塩鉱物（ゼノタイム），ネソけい酸塩（ブラウン鉱）などを新たに規定する．
- 地質属性記号コードに“立

第1表　存在確実度と位置正確度に基づく断層の区分（JIS A 0204解説より引用）

区分体系	定義	対象	産総研での適用地質図	存在確実度	位置正確度			
					非伏在			伏在
					正確	ほぼ正確	推定	特定しない
1	存在確実度不特定・位置正確度不特定	1/100万程度の小縮尺地質図での使用を想定	1/100万地質図など	特定しない	特定しない			位置伏在
2	存在確実度特定，位置正確度不特定	1/20万程度の中縮尺地質図での使用を想定	1/20万地質図幅，1/20万海洋地質図など	確認	特定しない			位置伏在
				推定	特定しない			位置伏在
3	存在確実度特定・位置正確度特定	1/5万程度の大縮尺地質図での使用を想定	1/5万地質図幅，大縮尺の火山地質図，特殊地質図など	確実	位置正確	位置ほぼ正確	位置推定	位置伏在
				不確実	位置正確	位置ほぼ正確	位置推定	位置伏在

坑”と“休廃止石材場”を追加する．

・堆積岩岩相コードの地層・岩体の境界面の形状について，傾斜境界面，水平境界面及び鉛直境界面の主題属性コードを追加するとともに，水平断層面の主題属性コードを追加する．

最後に注意点について述べておきたい．産業標準化法では国及び地方公共団体にはJISの尊重義務があり，公的機関からの地質図作成依頼は本JISに従う必要があるが，それ以外の状況ではJISに準拠して地質図を作る必要はない．このJISの規定は品質の保証と普及を目的としたものであり，学術の表現手段を限定するものではないためである．しかしながら，地質コンサルタント業界の会員の利便性や，業界に就職する学生・院生の教育を考え，地質学会では，地質学雑誌においても，JISに基づく表現を推奨している．新しい発見に基づく表現手段の多様性はJIS内でもできる限り確保することを目指している．今後も地質学の発展に合わせて最新の研究成果をJISに反映させることを続けていくことによって，地質図が社会で使いやすい状況を構築していくつもりである．

文　献

JIS A 0204：2019. 地質図－記号，色，模様，用語及び凡例表示. 日本規格協会.

JIS A 0205：2019. ベクトル数値地質図－品質要求事項及び主題属性コード. 日本規格協会.

川畑 大作・斎藤 眞・尾崎 正紀（2019）地質図についての日本産業規格（JIS）の改正（2）—2019年版の改正内容について—. 日本地質学会学術大会講演要旨. https://doi.org/10.14863/geosocabst.2019.0_275

日本工業標準調査会ホームページ　https://www.jisc.go.jp/jis-act/index.html

斎藤 眞・川畑 大作・尾崎 正紀（2019）地質図についての日本産業規格（JIS）の改正（1）—JIS A0204とA0205の制定と改正の経緯—. 日本地質学会学術大会講演要旨. https://doi.org/10.14863/geosocabst.2019.0_274

表紙紹介

第12回惑星地球フォトコンテスト：入選（中高生部門）
奇跡の小岩

写真：**石谷樹莉**（長崎県）

撮影場所：長崎県　五島市玉之浦町大瀬崎

撮影者より：この写真は，長崎県五島列島の福江島にある大瀬崎断崖にある岩を撮影したものです．大瀬崎断崖は，西海国立公園の特別地域に指定されています．砂岩と泥岩の互層からなる新第三紀層「五島層群」が，東シナ海から叩きつける荒波で削られて形成された海食崖であり，標高250mの大瀬山山頂まで急斜面が続いています．崖の亀裂に小岩が絶妙に挟まって奇跡的だと思いました．

講評：この小岩はどのくらいの大きさなのでしょうか．どこからやってきたのか，いつ落ちてしまうのか，いろいろな思いを巡らすことができます．撮影地の五島列島は日本ジオパーク認定を目指して現在活動中です．このフォトコンへの応募も五島列島を知ってもらう良い機会になりますね．（審査委員長　白尾元理）

解説：本作品は，五島列島福江島で最も有名な観光スポットである大瀬崎灯台（映画・悪人：クライマックスの場所に使われている）での作品です．普通，大瀬崎に行くと周辺部に広がる砂岩泥岩の大露頭に目が行来ますが，この作品では，東西方向の割れ目に挟まれ“頑張って”残った岩石を取り上げています．夕日をバックの高校生の目に映る自然・ジオが垣間見られた気がします．（清川昌一：九州大学）

5月10日は 地質の日

2022年の「地質の日」学会関連のイベントをご案内します．
イベントの情報は，学会HP<http://www.geosociety.jp>で
随時更新していますので，あわせてご覧下さい．

★オンライン一般講演会

オンライン一般講演会～最近の話題をテーマに

日本地質学会は，一般の皆様に最新の地質学研究の成果とその意義についてお知らせし，地質学への興味・関心を高めていただくことを目的に，『地質の日』にあわせ一般講演会をオンラインで開催いたします．今回は，災害や土地利用にかかわる案外身近な「地質情報の利用」と，最近日本やトンガでおきて注目を浴びている「海底火山噴火」のふたつをキーワードに，それぞれの研究で主導的役割を果たしている研究者に一般の皆様向けにわかりやすく解説していただきます．どなたでも無料で参加できます．チャット（YouTube上での書き込み）による質問・コメントも可能です．

開催日時：**2022年5月8日（日）** 9:00開会，12:10閉会予定
開催方法：YouTubeライブ配信（学会公式YouTubeチャンネル）　どなたでも視聴可能，申込不要，無料
プログラム（予定）
9:05～10:15
「**地質が身近にある社会を創る－新しい分野への活用に向けて－**」斎藤　眞（産総研地質調査総合センター・イノベーションコーディネータ）
地質図には様々な地質情報が含まれています．地質情報はこれまで地下資源，土木，防災（地震・火山噴火）などに使われてきましたが，斜面災害の規制の面で考慮されていないなど，活用にまだ多くの課題と可能性があります．こうした災害面の課題とともに，農作物の地理的表示（GI）保護制度での活用など，地質を身近なところで活用する新たな取り組みをご紹介します．
10:20～12:00
「**海底火山の世界を探る『爆発的海底噴火とその噴出物』**」
鹿野和彦（元鹿児島大学総合研究博物館・教授）
海面下の火山は，直接見ることがむずかしく，謎の多い世界です．それだけにフンガ・トンガや福徳岡ノ場で起こった大規模な噴火を目にすると，海面下の火山でどのようなことが起こっているのか気になりませんか．この講演では，爆発的噴火の噴出物の特徴や潜水調査中に撮影された動画などを紹介し，そこから読み取れる「その何か」を探ります．

問い合わせ先：日本地質学会事務局（main@geosociety.jp）

★惑星地球フォトコンテスト

第13回ほか入選作品展示会

日程：2022年5月3日（火・祝）午後～ 5月15日（日）15時頃まで
場所：東京パークスギャラリー（上野グリンサロン内）（台東区上野公園　JR上野駅 公園改札出てすぐ）
入場無料，どなたでもお気軽にお立ち寄り下さい．
入選作品の画像や講評は近日学会HPに掲載予定です．
http://www.photo.geosociety.jp/

★街中ジオ散歩

街中ジオ散歩ミニin Tokyo「国分寺崖線」

主催：（一社）日本地質学会，（一社）日本応用地質学会
日時：2022年5月15日（日）　午前9時～ 12時
見学場所：国分寺崖線（東京都国分寺市）
案内者：山崎晴雄氏（首都大学東京名誉教授）
集合場所：JR国分寺駅
会費：一般1,500円，小中学生500円（保険代含む，小中学生は保護者同伴）
募集人員：15名（定員を超えた場合は，締切後抽選）
募集期間：4月上旬に募集予定です．詳しくはHPをご確認下さい．
対象：参加資格は特にありません．
※日本地質学会HPに掲載する注意事項を十分にご確認のうえ，お申し込みください．
※会員の皆様へ：一般の方を対象とした行事のため，恐れ入りますが一般申込者を優先とさせて頂きます．
問い合わせ先：
日本地質学会（担当 細矢）メール：main@geosociety.jp

★近畿支部

第39回地球科学講演会

「北アルプス生成の謎　－マグマと短縮テクトニクスが作り出した北アルプス－」
日時：2022年5月8日（日）15:00～16:30
主催：地学団体研究会大阪支部・日本地質学会近畿支部・大阪市立自然史博物館
行事形式：講演会およびインターネットによる配信

講師：原山智氏（信州大学名誉教授）
場所：大阪市立自然史博物館講堂（YouTubeを使った同時配信）
定員：聴講150名（定員を超えた場合は抽選）
参加費：無料（博物館での聴講の場合は博物館入館料が必要）
申込締切：4月25日（日）
申込方法：大阪市立自然史博物館ホームページのイベント情報からお申し込みください（http://www.mus-nh.city.osaka.jp/）
（注）YouTubeを使った配信での聴講をご希望の方は、申込不要です.

地質學雑誌

地質学雑誌は，2022年（128巻）からは完全電子化となりました．会員の皆様に，公開されている新しい論文をご紹介します．ぜひJ-STAGE上で本論文を閲覧してください．
https://www.jstage.jst.go.jp/browse/geosoc/-char/ja

新しい論文が公開されています

論説　常時微動観測に基づく東京湾岸地域の沖積層の地盤震動特性とS波速度不連続面の深度

小松原純子, 長　郁夫, 坂田健太郎, 中澤　努
https://doi.org/10.5575/geosoc.2022.0002

東京都湾岸部の沖積低地（東京低地）の16地点で常時微動観測を行い，各地点で地盤の平均S波速度とH/Vスペクトルのピーク周波数すなわち地盤の共振周波数を推定した．これにより，表層の軟弱層が厚いと共振周波数が低くなることが示された．1/4波長則を適用して地盤の共振周波数を特徴付けるS波速度不連続面の深さを算出したところ，ばらつきは大きいものの，検討した13地点中7地点において，従来物性境界と考えられてきた七号地層/有楽町層境界よりも下位の，七号地層の砂泥互層中に位置することが示された．この不一致の原因として，七号地層の砂泥互層中や基底礫層上面の物性境界が影響を与えている可能性が考えられ，H/Vスペクトルピーク周波数のばらつきは砂泥互層を構成する蛇行河川堆積物やエスチュアリー堆積物の不均一性に由来すると考えられる．

フォト　国内の上部白亜系におけるアンモノイドを含むコンクリーションの産状

御前明洋, 村宮悠介
https://doi.org/10.5575/geosoc.2022.0001

Fig. 1. Concretions in the Campanian strata of the Yezo Group in the Haboro area, Hokkaido. Molluscan fossils in these concretions generally exhibit aragonite preservation. The hammer is about 33 cm long. The photograph at upper right shows a well-preserved ammonoid from a concretion from a nearby outcrop.

事務局からのお願い：会員情報に変更があった場合は，，，

自宅や勤務先等登録内容にご変更があった場合は，速やかに学会事務局までご連絡をお願い致します．
毎月の会誌や大切な郵便物が届かなくなってしまいます．情報の変更は，学会ホームページ「会員ページ」にログイン（ID：会員番号）していただければ，ご自身で登録内容を更新することも可能です．
ご協力をよろしくお願い致します．

問い合わせ：日本地質学会事務局　メール：main@geosociety.jp
電話 03-5823-1150　FAX 03-5823-1156

集合写真

地下神殿

支部コーナー

☆関東支部

お知らせ

アウトリーチ巡検報告

川の防災と川が作った地形を巡る～首都圏外郭放水路見学と春日部周辺，中川低地の地形観察

2022年2月20日（日），関東支部行事としてアウトリーチ巡検を実施しました．この企画は昨年度，緊急事態宣言により中止となったものです．今回もコロナ感染（オミクロン株）の最中でしたが，見学行程がほぼ徒歩であること，国交省の首都圏外郭放水路見学も感染対策を徹底して開催されていること等を考慮し実施いたしました．定員の20名を上回る申込みがありましたが，コロナに関係して直前にキャンセルが出た結果，最終的な参加者は17名でした．講師は元 埼玉県立 川の博物館学芸員の杉内 由佳 氏にお願いしました．博物館での巡検も数多く企画・実施され，中川低地に関連する資料等の作成にも関わっています．河畔砂丘等の地形解説，放水路の概要，水害の痕跡等，わかりやすく，且つ熱意を持って解説してくださいました．また，河畔砂丘見学に際し便宜をはかって下さった春日部自動車教習所，放水路展示解説者の方々にも大変お世話になりました．以上の皆さまに深く感謝いたします．ありがとうございました．具体的な見学内容は，参加いただいた方達の感想に詳しく記されていますので，ご覧いただければと思います．

（担当支部幹事：**田村糸子・米澤正弘**）

参加者の感想：

①北春日部駅（集合地）にて：数日前から芳しくなかった当日の天気予報，幸い集合時刻（10：30）には雨も上がる．前夜からの雨で大気が洗われたせいか，駅の跨線橋から遠く男体山，白根山等が遠望できた．

②外郭放水路：大落古利根川流入口にて：全長6kmに及ぶ外郭放水路の流入口．扁平な三つの大きな口が土手の脇腹に開いている．その出口（地下神殿）は観ても取り入れ口まで観る人は少ないという．さもありなん．入り口と出口が遠く離れていることに尽きる．双方を見学して本当に観たという実感．後で分かったことだが，龍Q館にある制御室からはリモートで流入口を常時監視しているという．人が近づけば注意のアナウンスもできるという．

「穴開けもここに極まる放水路」青葉太郎

③河畔砂丘見学：さすが坂東太郎，大河利根川は古砂丘をも残している．自動車教習所の構内にある砂丘．所長さんから丁寧な説明を受ける．教習所内のコースもその砂丘を整地したよし．海成古砂丘は横浜南部の円海山で調査したことがあるが，河川による砂丘は初めて．よく淘汰された砂粒が印象的であった．

「古砂丘も坂東太郎の置きみやげ」青葉太郎

④龍Q館展示館：地下放水路の様子が分かりやすく展示・説明されている．興味深かったのは，この低地の下部をつくる地層が数米に渡り写真展示されている．海進の際，この地一帯の様子がよく分かる．

「龍Q館煙に巻かれて令和の爺」青葉太郎

⑤地下神殿：その大きさはまさに地下神殿，圧倒された．なんといっても大自然の恐怖を真正面に受け止め，人知をつくした所業．膨大な費用がかかったが，自然への働きかけはこうでなくてはと思った次第．単に大きいだけではなくある種の神秘，美しさを感じた．そしてなによりも有用性・実利性を無言のうちに語っている．近い将来，世界遺産登録もよしとしたい．

「家康の願い叶えた大神殿」青葉太郎

⑥水塚：大自然の生業を柔軟に受け止め，昇華させた生活の知恵を感じた．

「大洪水しかと受け止め水塚あり」青葉太郎

⑦キャサリン台風時の河川決壊による水害跡：昭和20年代は多数の巨大台風が日本を襲いその猛烈ぶりを体感した一人として感慨深い．狩野川台風，枕崎台風，室戸台風，伊勢湾台風等々．洞爺丸の転覆も強く記憶に残る．過去をないがしろにすればどんな目に遭うか．人は過去の苦難を忘れたがる習性をもっているのではないかと思うほど．

「キャサリンは昔台風いま王妃」青葉太郎

感謝：地質学会アウトリーチ巡検の計画・指導いただいた先生方に感謝．杉内由佳先生のますますのご活躍を祈念いたします．

（**山田辰明**）

参加者の感想：

はじめに，今回の巡検の講師を務めてくださった杉内 由佳様，企画運営をしてくださった米澤様，田村様，今回の巡検を通じて充実の学びの1日を過ごすことができましたことに感謝申し上げます．今回の巡検先の目玉である首都圏外郭放水路については，テレビなどで特集され，存在を知ってはいましたが，洪水を防ぐための施設であることといった程度の知識しかもっておりませんでした．また，私自身，高校を卒業するまで江戸川をはさんで隣の千葉県東葛飾地域に住んでいたこともあり，たまに江戸川を越えて埼玉県を訪れた際に何となく「埼玉県（江戸川周辺）って千葉（東葛飾地域）に比べて平らだな」という感覚を抱いておりました．　今回の巡検において，この何となく平らという感覚が間違っていなかったこと，また平らであるが故に首都圏外郭放水路という事業が必要な地域であったことを学ぶことができました．

午前中の巡検は，北春日部駅から春日部駅まで，近くを流れる大落古利根川にある首都圏外郭放水路第五立坑と，教習所にある河畔砂丘，船で栄えた粕壁（かすかべ）の宿場町をまわりました．「大落古利根川」が「おおおとしふるとねがわ」とは読めず，「落」は農業用排水路に由来する名であるとのことでした．河畔砂丘は,中世以前当時の利根川の自然堤防と季節風によってつくられたと知り,江戸時代の徳川幕府が「利根川の東

遷」をおこなったことによってこのような地形が残り,また当時の利根川は東へ流れを変えなければならないほど,当時から水害と共にあった地域だと推察できました．午後は，首都圏外郭放水路の第一立坑と調圧水槽（地下神殿）の見学から，中川低地と下総台地との境を通り，南桜井駅までの巡検でした．首都圏外郭放水路の調圧水槽は，長さ7m，幅2m，高さ18m，重さ500tの柱59本に支えられた巨大な空間，そしてそれを造った技術に圧倒されました．1日の巡検をふり返ると，午前中は，河畔砂丘，利根川の東遷といった中世から江戸時代にかけての粕壁の治水，午後は首都圏外郭放水路という平成の時代の春日部の治水といった一種のタイムスリップのような体験をしたまとまりのある巡検でした．

現地を訪れ，実物を見ながら，説明を受けることによって新たな知識が得られたり，知識が深まったりすることが巡検の醍醐味であると改めて感じた1日でした．

（千葉県総合教育センター　**田﨑 俊介**）

☆関東支部

お知らせ

2022年度総会・講演会開催のお知らせ（第二報）

関東支部では，下記のように支部総会及び講演会を開催いたします．今回は事前申込制の「会場＋オンラインのハイブリッド方式」で行います．講演会は非会員の方も受講可能で，CPD1.5単位取得可能です．

【2022年度関東支部総会概要】
日時：**2022年4月17日（日）14:00～16:45**
場所：大田区産業プラザPiO　3階 特別会議室（京急蒲田駅前）
※3月7日現在，新型コロナ感染拡大状況により，会場の定員には人数制限もあるため，現地会場ではできるだけ少数の出席者を見込んでおります．
※総会・講演会への参加はできるだけオンラインでの出席，あるいは委任状または議決権行使書による書面での総会出席をお願いいたします．
※なお現地会場での参加のご希望があれば事前にお申し出を受け付けます．

【プログラム】
13:30　受付開始
14:00～15:40　講演会（CPD単位取得1.5単位取得可）
講師：中澤　努氏（産総研）「首都圏の浅部地盤の地質層序と地盤震動特性」
要旨：近年，首都圏の地下浅部の層序が明らかにされつつある．またそれに基づき地下浅部の3次元地質モデルの構築が試みられている．これまで首都圏の地震動予測等に地下浅部の地質の情報はほとんど反映されなかったが，地質層序に基づく地質モデルが構築されることで，地質と地盤震動特性を紐付けすることが可能となってきた．ここでは常時微動観測で知ることのできる首都圏の地盤震動特性，特にピーク周波数と地質層序の対応関係について，いくつかの例を挙げて論じる．
15:50～16:45　関東支部総会
1）支部功労賞授与式
2）議長選出
3）支部規約改正（第1号議案）
4）2021年度　活動報告（第2号議案）・会計報告（第3号議案）
5）支部役員選任（候補者の選出が選挙の場合は総会参加者で投票）
6）2022年度　活動方針（第4号議案）・予算報告（第5号議案）

【総会・講演会参加申し込みフォーム】関東支部ホームページ「2022年度総会・講演会開催のお知らせ（第二報）」に掲載します．

【議案書・議決権行使書】関東支部ホームページ「2022年度総会・講演会開催のお知らせ（第二報）」に掲載します。議案書は4月上旬掲載予定です。

【委任状】webフォーム、郵送、FAXのいずれかの手段でお送りください。
○**webフォーム：4月15日（金）18時締切**
https://forms.gle/Y7PYVYcTHyyHTBQd6
○**郵送またはFAX：4月14日（木）必着締切**
下記にお送りください．
〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F
日本地質学会事務局気付　関東支部事務局
FAX：03-5823-1156

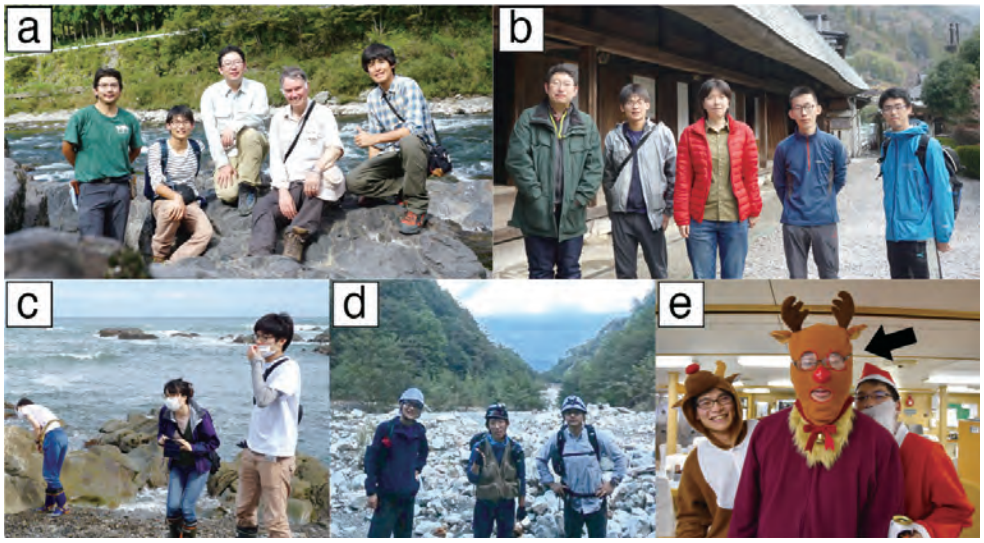
＜関東支部総会委任状＞

2022 年 4 月 17 日（日）開催の日本地質学会関東支部総会に出席できませんので，当日一切の議決権を

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿君（又は，議長）に委任します（空欄の場合は議長とします）．

2022 年　　月　　日
住　　所：
会員氏名：

無料で使える!
WEB教材
地層と地形が教えてくれる
ボクたちのルーツとミライ
ボクたちの"足もと"から
地球のことを知ろう
日本の
スゴい地形
解明!! 日本の
地形・地質の
でき方
地形や地質の
実験を
してみよう
地形や地質と
そこに住む人々の
歴史を調べて
みよう
キミの近くにもあるぞ!
身近なところの
地形や地層に目を
やってみよう
地球は
生きている
こちらから
アクセス
できます
http://yume-earth.geosociety.jp/
日本地質学会
「子どもゆめ基金助成活動」
体験の風をおこそう
この教材は、平成29年度子どもゆめ基金(独立行政法人国立青少年教育振興機構)の助成金の交付を受けて、一般社団法人日本地質学会が作成したものです。
一般社団法人日本地質学会
〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-8-15 井桁ビル
TEL：03-5823-1150 問合せ：main@geosociety.jp
※非営利目的の青少年教育活動で使用する場合にはご連絡ください。



a: Stephen Cox教授（オーストラリア国立大学）を招いての美濃帯巡検．b: 九州の秘境・椎葉村にて．c: 大洗の白亜系巡検．d: 南アルプスにて，箱守君（写真中央）の調査中 e: 白鳳丸30周年記念南極航海（KH-19-6 leg4）でクリスマスの仮装をする飛鳥さん（写真中央）と学生．

院生コーナー

東京大学大気海洋研究所海洋底科学部門 山口研究室

東京大学大気海洋研究所博士課程２年
大熊祐一

【研究室概要】

東京大学大気海洋研究所博士課程２年の大熊祐一です．東京大学大気海洋研究所 (Atmosphere and Ocean Research Institute, AORI) は，東京，ではなく千葉県柏市の東京大学柏キャンパスにあります．その中の海洋底科学部門 (Department of Ocean Floor Geoscience, OFGS, http://ofgs.aori.u-tokyo.ac.jp/) では，９名の教員（山崎俊嗣教授，沖野郷子教授，横山祐典教授，芦寿一郎准教授，朴進午准教授，黒田潤一郎准教授，山口飛鳥准教授，秋澤紀克助教，松崎賢史助教）の方々と大学院生が研究に励んでいます．山口研では，陸上調査や海洋探査・深海掘削，室内実験・分析などを総合して，プレート沈み込み帯のテクトニクス復元・地震の理解に取り組んでいます．研究テーマは多岐にわたっており，ここからは学生ごとに研究内容を紹介していきましょう．

D2大熊祐一　芦研と山口研の掛け持ち．海底にある地形的高まりである海山が，陸のプレートの先端部，特に付加体の下に沈み込む過程を対象に，アナログモデル実験から付加体の変形過程を理解する研究を行っています．機械好きを活かして，砂箱実験装置の改造や3Dプリンターによる部品の制作も行っています．

D2奥田花也　南海トラフの掘削試料，付加体の玄武岩など，沈み込み帯に存在する物質を用いて摩擦実験や変質実験を行い，沈み込み帯で発生する地震発生プロセスの研究を行っています．コロナ禍をものともせず，実験やサンプリングのために，日本だけでなく世界中を飛び回っています．

M2山本一平　沖縄県慶良間諸島に露出する付加体の変成・変形履歴の復元から，白亜紀の琉球弧のテクトニクスを推定する研究を行っています．１つの対象地域の試料に対して幅広い研究手法を利用し多角的な視点にもとづき論を組み立てる面白さを学びました．

M1水野　瞳　珪質堆積物に富む堆積物が多く存在する沈み込み帯において，続成作用で生じる水の挙動を理解するため，美濃帯の石英脈の酸素同位体比を用いて水の起源を紐解く研究を行っています．研究室に配属されてまだ日が浅いですが，指導教員の専門分野のみならず様々な手法を用いた研究に挑戦できる環境が整っていると感じています．

M1箱守　貴　伊豆弧が西南日本に衝突を開始した年代を制約することを目的として，山梨県巨摩山地に露出する桃の木亜層群（衝突開始前のトラフ充填堆積物）を対象に，野外調査と年代分析を中心とした研究を行っています．趣味は登山で，調査にも役立っています．

【巡検などのイベント】

新型コロナウイルス感染症の拡大以前は，多種多様な“もの”を見る目を養いながら，研究室内の親睦を深めるため，年２回ぐらいの頻度で研究室独自の巡検を開催していました．巡検では，研究室で扱っている付加体・変成岩を対象とし，堆積・変形構造や水-岩石反応が観察できる露頭を重点的に回ります．これまでに，岐阜県美濃加茂市周辺（美濃帯）や山梨県早川町付近（糸魚川-静岡構造線），高知県・徳島県（四万十帯），宮崎県延岡市（四万十帯），茨城県（棚倉構造線・大洗の白亜系）などに赴き，さまざまな温度圧力条件，さまざまな続成・変形様式を示す露頭を前に観察・議論を行ってきました．現在は新型コロナの影響で活動が限定的で，メンバー一同巡検欲が高まりつつあります．

この他にも山口研に所属すると学術研究船を用いた調査航海に乗船する機会（多いと年３回ほど）もあります．航海では主に海底表層（~海底下十数m）の堆積物の採取，海底地形や海底下構造断面といった物理探査データの取得が目的で，１航海あたり１－２週間，長いと１ヶ月程度の長期にわたり調査を行います．船内では指導教員や他機関の研究者の方々，先輩，同期，後輩といった乗船メンバーと船内生活を共にするので，その分普段はできないような濃密な時間を過ごすことができ，距離が縮まります．

山口研やOFGSでは，研究に必要な資材・試料・機器といった研究環境は当然ながら，学生同士や教員との交流も多く，研究の相談から日常生活での悩みなどを研究室・研究分野を超えて気軽に話せる環境も整っていると感じます．また，AORI全体での交流も多くあります．少しでも気になった学生・院生の方は，是非一度オンラインで気軽にお話ししてみませんか？また状況次第ではありますが，直接見学に来ていただくのも大歓迎です．研究所の1階にはお寿司屋さん「はま」もありますよ．学食のレベルではないと評判です．皆さんのお越しをメンバー一同お待ちしています！

常時投稿をお待ちしています．編集は，現在以下の4名で行っています．原稿は1500～5000文字程度，図・写真3点以内を目安に，e-mailでお送りください．

716o.nonn@gmail.com　大山　望（九州大）
a.sakuma@eps.s.u-tokyo.ac.jp　佐久間杏樹（東京大）
dkuwano@chiba-u.jp　桑野太輔（千葉大）
90rymenjpgr@gmail.com　時永万音（新潟大）

入 会 の ご 案 内

入会ご希望の方は下記の入会申込書を一般社団法人日本地質学会事務局へお送りください．

入会には正会員1名の紹介が必要です．近くに紹介者となるべき会員がいない場合はその旨お申し出ください．また，初年度の会費は申込書郵送時から時間の間隔をおかずに下記送金先へ速やかにご送金ください．会員としての正式登録は，入会承認後，初年度会費の入金を確認した上で行い，雑誌の送付(4月号から)を開始いたします．

申込書送付先:101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　一般社団法人日本地質学会

送金先:郵便振替口座　00140-8-28067　一般社団法人日本地質学会

ゆうちょ銀行　〇一九(ゼロイチキュウ)店／当座 0028067 ／一般社団法人日本地質学会 ｼﾔ)ﾆﾎﾝﾁｼﾂｶﾞｯｶｲ

会費(※1)年額:正会員 12,000円　(学部学生割引＊5,000円，院生割引＊8,000円【定収のない方に限る】 ※2)

※1:学会費には地質学雑誌の購読料が含まれています．

※2:学部学生割引，院生割引を希望される方は，下記の割引申請欄に指導教員の署名，捺印をもらってください．

一般社団法人日本地質学会入会申込書　Application form for the Geological Society of Japan

太枠内のみにご記入ください(＊Official use only)

＊会員番号	＊会員種別　☐ 正会員　(☐ 学部学生割引 ・ ☐ 院生割引)
氏名(ふりがな)　Name in Japanese	ローマ字表記 family name　first name
_____年Year_____月Mo_____日Day　生born on	Sex:☐ 男 Male　☐ 女 Female　Country:

学歴 Academic career:

_____学校 High school_____年卒業 Year completed

_____大学 University _____学部 Faculty _____年_____月 卒業(見込み) Year completed

修士 Master:_____大学Univ._____研究科Fac. _____年_____月 修了(見込み) Year completed

博士 Doctor:_____大学Univ._____研究科Fac. _____年_____月 修了(見込み) Year completed

自宅住所 Home address: (郵便番号 Zip code　-　)

電話 Phone:　ファックス Fax:

所属機関名称・所属機関住所 Affiliation with address: (郵便番号 Zip code　-　)

※ 郵便物がきちんと届けられるよう，ご記入ください．

電話 Phone:　ファックス Fax:

e-mail Address:　@

※e-mail Addressは地質学会からのメルマガ配信用，その他連絡用に登録します．携帯電話各社のe-mail Addressを記入の場合は登録いたしません．ご注意ください．

※所属先(代表)の問い合わせ専用 e-mail Address は記入しないでください．

連絡先 Correspondence:　☐ 自宅 Home　☐ 所属機関 Office

会員名簿の掲載項目:2年に1度，会員名簿を発行しています．氏名・所属先は掲載必須項目です．下記の項目について**掲載を拒否する項目には☐ にチェックを付けてください(チェックが無い項目は掲載承諾いただいたものとします)**．

☐ 最終学歴　☐ 所属先学科名・部課名(掲載不可の場合は「〇〇大学〇〇学部」，「㈱△△△△社」までを必須項目として掲載)

☐ 所属先住所　☐所属先電話・FAX番号　☐自宅住所　☐自宅電話・FAX番号　☐e-mail Address

紹介者名(正・院生会員)　印

Recommended by (name of member) _____ Signature

学部学生割引・院生割引申請欄:運営規則に基づき，学会費の割引申請をいたします．

上記本学の学生につき，　☐ **学部学生** ・ ☐ **定収のない院生(研究生)**〔いずれかにチェックをつけてください〕

であることを証明いたします．

指導教員　所属:　氏名:　印

専門部会:現在，下記の15の専門部会があり活動しています．専門部会に参加ご希望の方は登録をお願いします．所属希望の部会を3つまで選択することができます．(該当する項目に〇印を付けて下さい)

1. 地域地質　2. 層序　3. 堆積地質　4. 現行地質過程　5. 海洋地質　6. 構造地質　7. 岩石　8. 火山　9. 応用地質
10. 環境地質　11. 情報地質　12. 古生物　13. 第四紀地質　14. 環境変動史　15. 鉱物資源

興味専門分野:あなたの興味専門分野を教えてください．3つまで選択することができます．(該当する項目に〇印を付けて下さい)

1. 層位　2. 堆積・堆積岩　3. 古生物　4. 構造地質　5. 火山・火山岩　6. 深成岩　7. 変成岩　8. 鉱床地質(金属・非金属)
9. 鉱床　10. 鉱物　11. 燃料地質　12. 地熱　13. 第四紀　14. 環境地質　15. 都市地質　16. 土木地質　17. 土質工学
18. 水文地質　19. 探査地質　20. 土木工学　21. 情報地質　22. 地震地質　23. 海洋地質　24. 地球物理　25. 地球化学
26. 地質年代学　27. 地理　28. 地学教育　29. 考古学　30. その他　40. 地球惑星

(注)ご提供いただいた個人情報は、日本地質学会プライバシーポリシーに基づき適切に取り扱います．

＊受付(　年　月　日)	＊入金(　年　月　日) 振替・現金・銀行・他
＊承認(　年　月　日)	＊送本(　巻　号)

一般社団法人日本地質学会倫理綱領

2003 年 9 月 19 日　日本地質学会総会制定
2009 年 12 月 5 日　一般社団法人日本地質学会制定 *

日本地質学会の会員は，科学的真理を明らかにする事を目的として，誠実かつ真摯に地質学および関連科学の研究・教育および調査を行う．その成果を広く社会に公表することにより地質学および関連科学の進歩普及を図り，もって社会の発展と人類の福祉に貢献する．会員は，基本的人権を守り，良識かつ品位のある行動をとる．

1. 科学者としての倫理：会員は，専門知識の向上および地質学と関連科学の発展を目指して自己研磨を図る．研究と調査においては，法を尊守し，社会的良識に従って行動する．科学的事実に対しては常に謙虚，誠実でなくてはならない．研究成果と技術上の知見を広く社会に公表し，公表にあたっては先人と他者の業績を尊重する．

2. 知的交流の確保：会員は，国際交流や他分野との交流を進めることを通して学術の向上を図るとともに，研究成果と技術上の知見が科学的に広く吟味・検証されるよう努める．

3. 人類と社会への責務：会員は，その専門知識と技術を適切に活用し，研究と調査の成果を広く社会に提供することを通して社会の発展と人類の福祉に貢献する．

4. 地球環境への責務：会員は，地球システムの諸現象についての専門家として，地質災害の予知と防止，地球環境の将来予測，資源の適正な活用に関する情報を提供するとともに，専門知識を活かして環境の保全と改善に努める．自らの研究と調査の実施にあたっては環境への影響を最小限にするよう配慮する．

5. 次世代への責務：会員は，地質学と関連科学における学術と技術の継承と発展，次世代を支える人材の育成を図る．研究や調査の成果物，重要な露頭や標本などの科学的遺産の保全に努める．

*2009 年 12 月 5 日法人理事会において，一般社団法人日本地質学会倫理綱領として全文引継を決定．

GEOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN
日本地質学会

5月10日は
地質の日

地質の日事業推進委員会事務局
国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター
TEL：029-861-3540　E-mail：geologyday-jimu-ml@aist.go.jp
Web：https://www.gsj.jp/geologyday/

地質の日事業推進委員会：（一社）日本地質学会、（一社）日本応用地質学会、資源地質学会、日本堆積学会、日本古生物学会、（一社）日本鉱物科学会、日本第四紀学会、日本情報地質学会、（独）国立科学博物館、全国科学博物館協議会、日本科学未来館、神奈川県立生命の星・地球博物館、（国研）産総研地質調査総合センター、（地独）道総研エネルギー・環境・地質研究所、（公社）東京地学協会、（一社）全国地質調査業協会連合会、（NPO 法人）日本ジオパークネットワーク（順不同：2022 年 1 月現在）

題字　高橋須葉

©一般社団法人日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp